

令和4年度 普通会計決算の状況

歳入

3,408億円

【歳入の内訳】

カッコ内は構成比

■一般財源	1,855億円(54.4%)
(使い道が特定されず、どのような経費にも充てられる財源)	
①都区財政調整交付金	1,116億円(32.7%)
②特別区税	535億円(15.7%)
③その他一般財源	203億円(6.0%)
■特定財源	1,553億円(45.6%)
(使い道が限定された財源)	
①国庫・都支出金	1,150億円(33.7%)
②繰入金	221億円(6.5%)
③繰越金	70億円(2.0%)
④使用料	43億円(1.3%)
⑤地方債	0億円(0.0%)
⑥その他の特定財源	70億円(2.0%)

歳出

3,268億円

【歳出の内訳】(目的別歳出)

カッコ内は構成比

1 民生費	1,868億円(57.2%)
(1) 社会福祉費	54,817(百万円)
(2) 老人福祉費	24,414(百万円)
(3) 児童福祉費	59,023(百万円)
(4) 生活保護費	48,562(百万円)
(5) 災害救助費	1(百万円)
2 教育費	498億円(15.2%)
3 土木費	268億円(8.2%)
4 衛生費	255億円(7.8%)
5 総務費	251億円(7.7%)
6 労働費・商工費	57億円(1.7%)
7 公債費	33億円(1.0%)
8 消防費	28億円(0.9%)
9 議会費	9億円(0.3%)
10 農林水産費	1億円(0.0%)

※ どのような目的に支出したかを示しています。

なお、人件費はそれぞれの費目に含まれます。

注) 金額等は、表示単位未満の端数調整をしていないため、加減乗除した数値が一致しない場合があります。

令和4年度 普通会計決算の状況

- ・歳入総額(3,408億円)は、前年度比△101億円、2.9%の減でした。
 - ・歳出総額(3,268億円)は、前年度比△111億円、3.3%の減でした。
 - ・形式収支(歳入から歳出を差し引いた残り)から、翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた実質収支は130億円でした。
 - ・実質収支比率は、7.4%(前年度より0.7ポイント増加)で、望ましいとされる割合を上回りました。
 - ・経常収支比率は75.9%(前年度より1.1ポイント減少)2年連続で適正水準とされる80%以内を維持しました。
 - ・歳入の32.7%(1,116億円)を、都区財政調整交付金に依存しています。
 - ・歳出の50.8%(1,660億円)が義務的経費(人件費+扶助費+公債費)です。
 - ・生活保護費や保育園の運営費などの扶助費は、前年度比で39億円減少し、歳出全体の38.2%(1,250億円)を占めています。
 - ・区の借金にあたる特別区債の現在高は、前年度比で31億円減少し、222億円となりました。
 - ・区の預貯金にあたる基金の現在高総額は、前年度比で12億円増加し1,816億円となり、将来の財政負担に備えています。
 - ・健全化判断比率は、いずれの数値も健全性を維持しています。
(財政状況の悪化による自治体の財政破綻を未然に防ぎ、適切な是正措置が取れるよう公表を義務付けられた指標です)
- ▶詳しくは、「令和4年度 普通会計決算のあらまし」をご覧ください。